



# デフアスリートを ささえる *vol. 2*



学校体育・部活動編

---

---

## ごあいさつ

---

---

全日本ろうあ連盟  
スポーツ委員会委員長  
**小椋 武夫**



スポーツ庁は「する・みる・ささえる」といった多様なスポーツライフを通じて、スポーツ参画人口の拡大を目指しています。アスリートのプレーを「みる」、ボランティアの「ささえる」活動を通して、「する」スポーツへの興味が喚起され行動へとつながることが期待されており、きこえない人のスポーツ活動を通じた社会参加と共生社会の実現にも通じる取組になります。

きこえない人がアスリートのプレーをみるためには、スポーツ施設の情報アクセシビリティ向上、放送の字幕・手話言語付与などの整備が進められています。一方、きこえないアスリート(デフアスリート)がスポーツをするにあたっては、スポーツ関係者によるきこえないことや手話言語への理解促進とともに、デフアスリートのスポーツ活動をささえる手話言語通訳者の育成が重要になっています。

本委員会が受託しました、スポーツ庁の令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト事業」は、スポーツに精通した手話言語通訳者の育成を主な目的としています。そこで、スポーツ分野で通訳者が準備すべき内容の基礎として、きこえない子どもが最初にスポーツに参加するきっかけとなる学校体育や部活動、そして大会参加について紹介するパンフレットと、専門種目として、陸上競技、卓球競技を解説するパンフレットを製作しました。スポーツ活動の現場で通訳を行う方々の知識と技術の向上にこれらの手引が役立つことを願っています。

# スポーツ分野で通訳するための準備

きこえない人のスポーツ活動を通じた社会参加を支える手話言語通訳者が、通訳者としての倫理観を備えた上で準備しておくべき知識と技術を、「共感力・協働力」、「言語技能・表現力」、「場面对応力・実践力」、「スポーツ関連・競技ごとの専門知識」の4テーマに整理しました。



このハンドブック (vol. 2) は、スポーツ活動の入り口となる学校体育や部活動において、きこえない児童・生徒がどのような指導を受けているのか、どのような形で大会等に参加しているのかを、教員、卒業生それぞれのご経験もあわせて紹介します。スポーツ分野の通訳に対応できる共感力・協働力・場面对応力・実践力・言語技能・表現力を養うに必要な知識・情報の入門編としてご活用ください。

ろう学校における

# 部活動と大会参加

## ▶ ろう学校の数・在籍数

全国の聴覚障害教育を行う分校を含めた学校数は119校となっています。そこに在籍する幼児や児童、生徒の総数は、7,651名であり、そのうち、中学部・高等部の生徒数は3,688名となっています。(文部科学省 令和3年度 学校基本調査より)

## ▶ ろう学校の部活動の状況

生徒数が少ないため、中学部と高等部が一緒になって練習を行なっている学校が多くあります。生徒数の減少によって、体育の授業や部活動で団体競技ができなくなった学校が増えています。野球部やバレーボール部の存続が難しくなり、卓球部や陸上部、バドミントン部など個人競技の活動を中心に行っている学校が増えています。また、ろう学校の大会にはない種目でも、中体連や高体連、高文連等の大会に参加している学校や最近新しくダンス部や空手道部を創設する学校もあります。

### ろう学校の大会の情報保障の様子



- ①全国聾学校卓球大会の開会式(情報保障用スクリーンを使用)
- ②全国聾学校陸上競技大会の試合(スタートランプを使用)

(全国聾学校PTA連合会HPより転載)

## ▶ ろう学校の大会一覧

	全国	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
陸上競技	○	○ <sup>※1</sup>	○ <sup>※2</sup>	○	—	○	○	○	—	○
卓球	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—
野球	—	—	—	○	—	—	△ <sup>※3</sup>	—	—	—
バレーボール	—	—	—	○	—	○	△ <sup>※3</sup>	—	—	—

※1=北海道は高等聾学校1校のみのため、高校生は高体連に参加。中学部までの6校で陸上競技大会を開催

※2=隔年開催 ※3=参加チームの減少により休止

## ▶ ろう学校の大会のはじまり

全国大会が行われている競技は陸上競技と卓球のみで、60年近く継続されています。ろう学校の大会で最も古いのは、1952年(昭和27年)に開催された第1回関東聾学校野球大会と第1回関東聾学校排球大会になります。なお、第1回ろうあ者体育競技大会は1926年(大正15年)に開催されています。この大会は、文部省・ろう学校・各ろうあ団体の協力を得て戦時統制まで継続されていました。

全国や地区の大会だけでなく、都道府県単位の大会、学部毎の大会などさまざまな運営形式で大会が行われています。2020年より新型コロナウイルス感染症の影響によって、全国大会をはじめ地区の各大会の中止が相次いでいます。

学校体育や部活動に関わる教員にきいた

# 学校の指導現場

ろう学校の教員に学校体育や部活動での指導についてお話を伺いました。

## 質問

スポーツ指導において生徒とのコミュニケーションで困難に感じる点はありますか？きこえる指導者の視点できこえないからこそその気づきや工夫点があれば教えてください。



**荒川 郁朗 先生**

筑波大学附属  
聴覚特別支援学校  
バレーボール部顧問

中学部・高等部の授業を担当していますが、最近は人工内耳装用の生徒が増えてきていることもあり、手話言語や指文字だけでなく口形や音声も大切にしています。スポーツを指導する中で、やりにくさを感じる場面は、バスケットボールやサッカーなどのゴール型の種目を行うときです。これらの種目は基本的にホイッスルの音でプレーを中断します。例えばバスケットボールでは反則や違反が起きた時にホイッスルが鳴りますが、「押す」「つかむ」等の反則の際にプレーが中断されず、ケンカになってしまう場面が見られます。バレーボールや野球などのプレーの切れ目が分かりやすい種目と比べるとやりにくさを感じます。

ダンスの指導の場面では、動きを覚えるのがとても速いと感じます。きこえる私は曲のリズムやメロディに合わせて動きを覚えませんが、多くの生徒たちはきこえにくい環境の中でリズムを取る難しさを乗り越えて短い時間で動きを覚えてしまいます。ろうの生徒は、きこえにくい分、視る力が優れていると感じています。



## 竹見 昌久 先生

東京都立中央ろう学校  
陸上競技部顧問

本校では、普通中学校から入学してくる、手話言語を知らない生徒も多く、個別に手話言語講習会を行うなどの支援が必要なケースも増えてきています。今年、生徒2名が陸上ハンマー投げとアルペンスキーでインターハイにすることができましたが、手話言語通訳者が競技場所に入ることが全国大会では前例が少なく、全国高体連へ手話言語通訳者の依頼をしたり、必要性を伝えるために資料を作ったりと、ろうの選手が参加するために越えなければならない作業の多さに、まだ理解が進んでいないことを感じました。

また、スポーツの場面では、音を頼りに技能を高めていくことが多く、陸上競技ではハンマー投げの風を切る音や走る時の足音などがそれにあたります。そのため、ろう選手に、言葉だけで技術指導することは厳しく、タブレットなどを活用し動画をフィードバックする事で技術習得を円滑に行うようにしています。

部活では、卓球の練習中に一斉指導することが難しいです。全員の練習をいったん止めてこちらに注目させてから説明をしても、具体的に何を要求されているかわからない生徒がいるので、生徒ごと個別に指導しました。指導者にとっては同じことを何度も言うことになりませんが、結果的にはその方が良いと感じています。コミュニケーションは手話言語が中心ですが、必ずホワイトボードに書くようにしています。練習メニューやパターン練習での返球のコースを図示したりしています。また、ビデオなどの動画を活用して視覚情報から動きをイメージできるようにしています。

卓球は音の情報も重要です。例えば、ボールにひびが入ると打球音が変わるので、きこえる選手はすぐ気づくことができますが、ろう選手はそのままラリーを続けてしまい、ひびが大きくなってボールが弾まなくなってから割れていることに気づくということが多いです。しかし、練習を重ねてラケットに当たる繊細な打球感が分かるようになった生徒は、打球感からボールのひびにすぐに気付くことができました。音の情報を補う打球感を身に付けられるということは、私にとって大きな発見となりました。



## 白鳥 奈美 先生

神奈川県立平塚ろう学校  
卓球部顧問（非常勤）  
（元静岡県立沼津聴覚特  
別支援学校 卓球部顧問）

デフアスリート  
にきいた

# 中高時代のスポーツ経験



ろう学校を卒業したアスリート

**佐々木 琢磨さん**

陸上競技 / 競技歴16年

## Q. 競技を始めたきっかけは？

八戸聾学校の部活は陸上部しかなかったので、小学生まで野球をやっていた自分は仕方なく陸上部に入りました。中3の時、盛岡聾学校の友達に「全国聾学校体育大会のリレー種目で一緒のチームで金メダルを取ろう！」と誘われて面白そうだと思い、高校から盛岡聾学校に入學して熱心に練習するようになりました。

## Q. 中高時代、部活動や大会参加においてコミュニケーションはどうしていましたか？

ろう学校だったので手話言語でコミュニケーションをとっていました。一般大会に出る時も基本的に先生が通訳してくれていたのが特に困ることはなかったですね。でも、先生を通してだけでなく、自分から積極的にきこえる選手に声をかけていたので、選手同士の交流はできていた方だと思います。

## Q. 一般大会に参加して良かった点・困った点は？

僕が中高の時はまだスタートランプがなかったので、きこえる選手との勝負で悔しい思いをしましたが、それが自分が強くなるための試練になったというのが良かったと思っています。一方、先生の通訳付きでの会話になると相手がほとんど先生を見るので、相手と自分が会話しているという実感をあまり感じられなかったことがマイナスな点ですね。

## Q. 中高時代はデフリンピックの存在を知っていましたか？(初めて知ったのはいつ?)

高校の時に初めて知りました。実は、ろう学校の先生はデフリンピックの存在を知っていたのに教えてくれなかったのです。先生は、デフリンピックは非常にレベルの高い選手が出るものでとても遠い存在だと思っていたようですが、選手のレベルに関係なく、デフリンピックがあることを生徒に教えてほしかったです。

## Q. デフスポーツと関わって感じていること

デフスポーツは、自分がろう者であることに誇りを感じられる大切な機会だと思っています。2年ほど前から一般大会でもスタートランプの使用を認められるようになったので、きこえる選手と対等に勝負ができるし、スタートランプを使うことで、「デフの選手がここにいるんだぞ」というアピールになるので、デフスポーツは自分を高めてくれる場にもなっています。

デフアスリートに中高時代のスポーツ経験についてお話を伺いました。



ろう学校と地域の学校の  
両方を経験したアスリート

南方 萌さん(旧姓:上田)

卓球競技 / 競技歴23年

### Q. 競技を始めたきっかけは？

下の兄が卓球をやっていて、兄の試合の応援に行った時に、たまたま隣のコートで五輪メダリストの福原愛さん(当時5歳)が試合に出ているのを見て、自分もやりたいと思い5歳から始めました。卓球のラリーできこえる人とコミュニケーションをとれているような感じがして楽しいと思いました。

### Q. 中高時代、部活動や大会参加においてコミュニケーションはどうしていましたか？

小6までろう学校にいて手話言語で話していましたが、中学からは地域の学校に入ったため、すべて口話で話していました。部活や遠征では、ミーティングで先生の話が分からない時はチームメイトが教えてくれていました。それでも分からないときは自分から先生のところに行って聞くしかなかったので大変でした。

### Q. 一般大会に参加して良かった点・困った点は？

小学から高校まで県代表として全国大会や合宿に出ているので、全国の子こえる友達がたくさんできたのが良かったです。困ったことは、大会のアナウンスがきこえないため、自分の試合に出るタイミングが掴みにくかったことです。その時はチームメイトや応援に来てくれた家族が教えてくれていました。

### Q. 中高時代はデフリンピックの存在を知っていましたか？(初めて知ったのはいつ?)

中学生の時に上の兄から聞いて初めて知りました。兄もろう者なので、どこかでデフリンピックのことを知ったようです。兄から聞いた時は「私もデフリンピックに出てみたい」と思いました。

### Q. デフスポーツと関わって感じていること

デフスポーツを通してろう者の仲間ができるので、きこえない人しか分からない悩みを共有しあえます。競技を引退して数年になりますが、今でも連絡を取り合っているほど大切な存在だと思っています。

デフアスリート  
にきいた

# 中高時代のスポーツ経験



地域の学校を卒業したアスリート

**田井 小百合さん**

陸上競技／競技歴30年以上

## Q. 競技を始めたきっかけは？

子どもの時から様々な運動が得意でした。小5の時、地域の陸上大会に出るために短距離、ハードル、走り幅跳びなどの記録計測をしたところ、特にハードルの記録がとでも良かったので、先生にハードルをやった方がいいよと勧められました。私もハードルが楽しいと思ったので、中1の時から本格的に始めました。

## Q. 中高時代、部活動や大会参加においてコミュニケーションはどうしていましたか？

聴力が約30dBの軽度で補聴器をまだつけていなかったで、音声でコミュニケーションをとっていました。ただ、高校の時は陸上の練習場がとでも広く、遠くにいる先生に私の名前を呼ばれても気づかないので、近くにいるチームメイトが教えてくれていました。(現在は、片耳は全くきこえず、もう片方は補聴器をつければきこえる状態です。)

## Q. 一般大会に参加して良かった点・困った点は？

補聴器をつければきこえる選手と同じ環境で勝負ができる場所はプラスになりますね。試合前の招集所で名前を呼ばれても分かりにくいので、声を聞き取れる位置で待機するなど工夫していました。ただ、試合の時は補聴器の音量を最大限に上げていたので、風の音や会場の雑音が入ってきてなかなか競技に集中できないので大変ですね。

## Q. 中高時代はデフリンピックの存在を知っていましたか？(初めて知ったのはいつ?)

中高時代は知りませんでした。30歳の時に一度競技を引退した直後、病気で聴力が低下したため補聴器が必要となり障害者手帳ももらいました。その時にお世話になった聴覚障害専門の先生との出会いがきっかけでデフリンピックのことを知り、31歳の時からデフリンピックを目指してデフ陸上に転向しました。

## Q. デフスポーツと関わって感じていること

いくつかの世界大会に出場して、一般大会にはない独特な雰囲気を感じました。海外の選手とは言葉が分からなくてもジェスチャーで通じることを知って感動しましたね。最初の頃は仲間が手話言語を音声通訳してくれていたのですが手話言語を覚えなくてもいいと思っていたのですが、チームをまとめる立場になり手話言語を一生懸命覚えました。手話言語はまだですが、手話言語は本当に奥深くて、コミュニケーションをとることの楽しさに気づきました。手話言語で相手に伝わるとやはり嬉しいですね。

手話言語通訳者にきいた

# 学校体育とデフスポーツの通訳現場

学校体育と部活動、デフスポーツにおける手話言語通訳にはそれぞれの特性があります。学校では教育の視点で指導を行うのに対し、デフスポーツではプロ意識を持ったアスリートを育てる競技団体が中心で、通訳もプロとしてのスキルを求められます。双方の共通点として、スポーツ指導において、動きを見せながら説明する際に同時だと両方を理解できない選手が多いため、動きと説明を分けて指導する必要があります。一方、学校での通訳では生徒が内容を理解できるように伝える努力をしますが、デフスポーツでは、指導者の方針で、選手に自分の力で考え指導者の意図に気づいてもらうために、あえて曖昧な言い方で伝えることがあります。

## スポーツ現場に求められる手話言語通訳とは？

- 競技の専門用語、ルールを熟知していること
- 大会参加において、試合進行の全体的な流れを把握できていること
- 大会中の通訳支援が原因で、選手が警告を受けたり失格になってしまうことがないように、大会関係者との連携をしっかりとれていること
- 選手が技術を習得する幅が広く各選手のレベルも違うため、選手の特性を理解できていること
- 選手に合わせたコミュニケーション手段を把握できていること
- 地域登録の派遣通訳とは違い、スポーツ現場では、合宿・遠征に同行することが多いため、体力、精神力、かつ一緒に楽しむ、戦うという気持ちが必要であること

ろう学校の生徒の

# 学校体育の現状

## ▶ 情報保障の現状

ろうの生徒は、補聴器や人工内耳を使用したり、手話言語だけでなく音声を活用したりするなど、様々な方法で情報を得ています。多くの学校では、外部に手話言語通訳を依頼する事例として、式典、保護者会、外部講師を招く講演会等、生徒以外の参加者がいる行事が中心になります。また、その依頼にあたり、予算調整も計画立案の必要な要素になっています。

## ▶ 体育の授業におけるコミュニケーションの工夫

授業では、説明や指示の際には、ホワイトボードを使ったり、合図として旗を使ったり視覚情報での提示を工夫しています。体育館の壁に設置したランプを点滅させることで、競技中の生徒に呼びかける工夫をしている学校も多くあります。



ランプを使用した合図

## ▶ 地域の学校(小学校、中学校、高等学校)の体育行事への参加

交流教育として、近隣の地域の学校(小学校、中学校、高等学校)の水泳大会やマラソン大会に参加する学校もあります。また、生徒数が少ない学校が集団参加への工夫として行う場合もあります。

## ▶ コロナ禍におけるコミュニケーションへの影響と工夫

一般のマスクでは口の動きや表情がわかりにくくなり、生徒と教員のコミュニケーションが十分にとれないという影響があります。そこで、授業中に教員が透明マスクやフェイスシールド等を着用する学校が多くあります。



出典: コニ・チャーム公式サイト

## ▶ 補聴器・人工内耳を装着しての体育参加時の注意

- 在籍数の中の人工内耳装用者の割合は、令和元年度で約3割と10年前の3倍となっています。(全国聾学校長会調査より)
- 補聴器・人工内耳は精密機器のため水に弱く、雨や汗に注意する必要があります。運動後の汗を布で拭き取るなどの手入れが重要になります。
- 衝撃にも弱いため、頭部にボールがぶつかったり、補聴器・人工内耳が外れて落としたりして壊れてしまうことがあります。激しい動きのある運動の際は、外して行うのが望ましいです。

ろう学校の生徒の

## 一般大会への参加

### ▶ 生徒に対する情報保障

- 高体連や中体連などの一般大会では、ろうの選手が対象の大会と違い、補聴器着用の禁止はありませんが、大会によっては手話言語通訳者の同伴を認めてもらえないケースが実在しています。また、事前に手話言語通訳者の同伴を大会側に申請したのに、大会の数日前にようやく許可が下りるケースもあり、手話言語通訳者の手配に支障をきたしてしまうという現状があります。
- ろう学校の生徒が一般大会へ参加する際の情報保障は、引率教員が手話言語通訳を行うことがほとんどです。
- 手話言語が分からない生徒もいるため、手話言語通訳だけでなくホワイトボードやノートPCなどを用いた要約筆記通訳も必要になります。また、地域の学校に在籍する生徒への対応も考慮する必要があります。
- コロナ禍におけるマスク着用によってコミュニケーションが難しくなる場面も多くなるため、透明マスクの着用が重要になります。
- 音声を自動認識し文字に変換するコミュニケーション支援アプリを使用するケースもあります。

### ▶ 地域の学校(中学校・高等学校)との合同チーム

ろう学校が地域の学校(中学校・高等学校)との合同チームで一般大会(高体連)に参加している事例は多くあります。県代表になって上位大会に出場している例もあります。

### ▶ 地域スポーツクラブへの所属

- ろう学校、地域の学校に関係なく、所属している学校にある競技種目以外のスポーツを行う場合、地域のスポーツクラブに通うケースがあります。
- 中高生に限らず、小学生が地域のスポーツクラブに通い、小学生の一般大会に参加するケースもあります。

第23回夏季デフリンピックに出場、メダルを取った選手4人に、スポーツ活動で困ったことを話していただきました。動画を下記サイトに掲載しています。



<https://youtu.be/PBvezrrD2MM>

スポーツ大会の開・閉会式、表彰式などで斉唱される国歌「君が代」の手話言語版を紹介する動画を下記サイトに掲載しています。



<https://youtu.be/gaA-zti-lyA>

## デフスポーツにおける手話言語通訳者の育成等に係る検討委員会 委員名簿

全国聾学校体育連盟	あきはら まさみみ 浅原 正文
全国聾学校体育連盟	あらかわ いくお 荒川 郁朗
国立大学法人筑波技術大学	おおすぎ ゆたか 大杉 豊
一般社団法人日本ろうあ者卓球協会	おおだいら しづや 大平 静也
一般社団法人日本デフ陸上競技協会	かどわき みどり 門脇 翠
一般社団法人全国手話通訳問題研究会	きはら 桐原 サキ
一般社団法人日本手話通訳士協会	くさの まきのり 草野 真範
社会福祉法人全国手話研修センター	こいで しんいち 小出 新一
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 医科学委員	なかじま ゆきのり 中島 幸則
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 委員長	おぐら たけお 小椋 武夫
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 事務局長	しまもと やすのり 嶋本 恭規

(委員名はスポーツ委員会以外は五十音順)

## デフアスリートをささえる vol.2

発行日 2022年3月31日

発行 一般財団法人全日本ろうあ連盟  
スポーツ委員会

T E L : 03-3268-8847

F A X : 03-3267-3445

メール: [jfd-sc@jfd.or.jp](mailto:jfd-sc@jfd.or.jp)

U R L : <https://www.jfd.or.jp/sc/>

---

## 一般財団法人全日本ろうあ連盟 スポーツ委員会

---

このガイドブックは、令和3年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツの指導等に係る競技別の標準化・マニュアル作成等）」（スポーツに精通した手話通訳者の育成）の一環で作成しました。

---

### [ 関連情報 ]

---

#### 「Deafsportal (デフスポータル)」

デフスポーツ・デフリンピックの情報を発信する総合ポータルサイトです。最新情報が随時更新されています。 <https://deafsportal.com/>



#### 「デフアスリートをささえるVol.1」

<https://deafsportal.com/files/R2JSA-Guide%20Vol.1.pdf>



#### 「スポーツ手話ハンドブック」

スポーツ大会や式典、大会運営に関わる人に役立つ用語を中心に幅広い分野の手話を246単語収録、さらにスポーツ関連の情報を掲載しています。  
<https://jfd.shop-pro.jp/?pid=132926516>



#### 「デフアスリートをささえる 競技別手話言語通訳ガイド サッカー編」

<https://deafsportal.com/files/R2JSA-Football%20guide.pdf>

#### 「聞こえないスポーツ選手の メディカルサポートについて」

聴覚障害ならではの特性や事例などをより深く知っていただくきっかけに作成しました。  
<https://www.jfd.or.jp/sc/files/2019/20190329-medical-support.pdf>



#### 「デフアスリートをささえる 競技別手話言語通訳ガイド 自転車編」

<https://deafsportal.com/files/R2JSA-Cycling%20guide.pdf>

